

## 第5期第1回 帯広市産業振興会議

日時：平成29年11月6日（月）17:00～17:45

会場：ふじもり 2階

### 【出席者】

- 委員：井田芙美子、大宮美紀子、小倉修二、梶原雅仁、金尾泰明、金山紀久、兼子賢、河西健一、貴戸武利、佐藤憲、佐藤聡、田中克宜、松本健春
- オブザーバー：田口敬一、鱈場尊、鈴木義尚、澤村光幸
- 帯広市：相澤充、植松秀訓、磯野照弘、中村忠範、吉田誠、加藤帝、後藤兆延、松本俊光、山本哲矢、今野さゆり、熊林佑允

(敬称略)

### 【資料】

- ・資料1 第5期帯広市産業振興会議 委員名簿
- ・資料2 帯広市産業振興会議について
- ・資料3 今後のスケジュール案について
- ・資料4 第5期帯広市産業振興会議の進め方
- ・資料5 条例施行10周年記念シンポジウム概要
- ・参考 帯広市産業振興ビジョン

### 1. 開会

開会にあたり、帯広市商工観光部長より挨拶があった。

・平成19年に施行された帯広市中小企業振興基本条例に基づき、この会議の前身である帯広市中小企業振興協議会は、延べ70回を超える協議を経て、この地域の10年間の産業振興の指針、すなわち帯広市産業振興ビジョンの策定に向けた提言をまとめられた。地元中小企業者自らが、地域の産業振興の方向性を決めていくという強い思いがあったものと感じている。

・我が国では、少子高齢化を背景とした国内市場の縮小や労働人口の減少といった問題が起きており、地域経済を取り巻く環境は大きく変化してきている。

・この先10年の地域の産業振興の指針、方向性を形作ることには大変難しい作業になるが、今期の会議のミッションである、第二期帯広市産業振興ビジョンの策定に向けて、一つ一つ議論を積み重ねていただきたく、よろしく願いたい。

### 2. 自己紹介

委員、オブザーバー、事務局職員より、それぞれ自己紹介があった。

### 3. 協議

会長の選任まで、商工観光部長により議事が進められた。

(1) 正副会長の互選について

委員の互選により、会長に梶原委員、副会長に松本委員及び金山委員を選出した。  
互選後、梶原会長より挨拶をいただいた。

(会長)

私は10年前も委員を務めさせてもらった。当時は委員という立場で、色々と発言させていただいたけれども、今回は会長ということなので、皆さんの意見をまとめていく役に回ったのだと感じている。

これからの帯広の10年間でまた決めていくことになるので、皆さんには意見をたくさん言っていただいて、一致団結して、それをしっかりビジョンにまとめていきたい。

私もこの10年間で、色々な団体の役員なども経験させていただいてきた。皆さんからいただいた意見を、各関係機関と更に繋いでいくのも私の役目かなと思う。2年間どうぞよろしくお願いしたい。

(2) 第5期会議の進め方について

事務局より、資料2から資料4に基づき説明があった。

(事務局)

資料2により、過去10年間の取り組みについて簡単に振り返る。中小企業家同友会とから支部と帯広商工会議所との合同による「中小企業振興基本条例」制定に向けた検討がすすめられ、平成19年3月に市議会において条例可決、4月より施行となったもの。条例では、関係者の「協働」を実現するための役割の明確化ということで、中小企業者、市長、市民、とそれぞれの役割を明示している。市長の責務においては、中小企業団体と密接に連携し、中小企業振興のための指針を定める、としている。この指針が、本日お配りした「帯広市産業振興ビジョン」である。

指針(ビジョン)策定に関する検討を行う主体として、平成19年7月に発足した「帯広市中小企業振興協議会」は、平成19年8月から翌20年11月にかけて、部会等を含め総計70回以上に渡る会議を重ね、提言書をまとめた。それを受け、市では、平成21年2月に産業振興ビジョンを策定した。

平成21年より、ビジョンの効果的な推進を図ることを目的として、「帯広市産業振興会議」が発足し、第1期から、平成28年度末の第4期まで、様々な議論をいただいていた。第3期にはビジョンの中間見直しを行い、UIJターンの促進など、新たな視点が追加された。第5期は、条例施行10周年の取り組み、また、ビジョンも間もなく計画期間である10年を経過することから、新ビジョン策定に向けた議論をすすめていく。

次に、資料3について説明する。ビジョンは平成30年度末をもって10年を経過する。帯広市総合計画が31年度末までとなっており、今後具体的な検討が進められていく。この新たな総合計画と時期をあわせながら、今年度は条例10周年記念事業、来年度は新ビジョンの検討といった議論を予定している。

次に、資料4を説明する。条例施行10周年記念事業と(仮称)第二期帯広市産業振興ビジョ

ンの策定、が今期の大きな2つの柱となる。

スケジュールについては、29年度は、具体的な議論テーマや部会等の検討。30年度は、アンケートや、企業訪問等による実態調査、専門部会による議論を実施し、秋頃にビジョン骨子案の整理、年明け頃にビジョン素案をまとめてまいりたい。31年度に原案の整理後、パブリックコメントを実施し、年度末に新ビジョン策定を予定している。

資料4の2枚目は、現ビジョンを見直しした平成26年度の検討体制を示している。振興会議12名の委員が、3名ずつ各部会に分かれて部会議論に参加いただいた。また、部会ごとに、臨時委員が5名ずつ参加いただき、各部会とも8名の構成となっている。各部会とも、4回ずつ会議を実施した。

新ビジョンに向けた議論、部会テーマについては、今後具体的に議論いただく予定。

(会長)

ただ今の説明について、意見、質問などあれば、お願いします。

(委員)

帯広市産業振興ビジョンについては次期計画を策定することだが、帯広市中小企業振興基本条例についてはどのような取り扱いをするのか。

(事務局)

この10年間、国の小規模事業者に対する支援の考え方や、地域経済を取り巻く環境なども変わってきている。こうした環境の変化を踏まえて、条例を直す方がよいのか、ビジョンを直す方がよいのか、この場でも議論いただいて、最終的に整理していきたい。

(事務局)

説明の補足だが、参考資料107ページに、現ビジョンをつくったときの体制がまとめてある。帯広市中小企業振興協議会の委員の方々に、各部会に分かれていただいて、「モノづくり・創業部会」、「経営基盤・人材部会」、「交流部会」、「産業基盤部会」といったテーマで、それぞれ10回程度議論していただき、まとめたものを親会である協議会の中で議論していくという形をとった。今年度中に部会の立ち上げを予定しており、来年度以降、各部会に分かれて議論していただく予定。

(会長)

今の時代に合わせながら、どういう部会にするか、この場で議論していくということか。

10年前には、協議会委員の皆さんが各部会の部会長になって、とりまとめをしていった。今回も同じイメージか。

(事務局)

基本的には、同じやり方を想定している。

(委員)

これからどんな部会かというのを考えて、それから委員を選んでいくという流れでよいか。委員の選任は、このメンバーでしていくということか。

(事務局)

前は、関係団体と相談しながら候補者の推薦をいただき、事務局で就任のお願いをしていた経過があるが、この場で少し案を出し合っていて整理する方法もあるかと考えている。

(会長)

なるべく現場に近い人の意見を聴いた方がよい。事務局で検討をお願いします。

### (3) 帯広市中小企業振興基本条例施行 10 周年記念事業について

事務局より、資料 5 に基づき説明があった。

(事務局)

平成 29 年度で、条例施行 10 周年を迎えている。これを記念するシンポジウムの開催について準備をしてきた。

日時は、12 月 6 日（水）、午後 7 時から 9 時。会場はとからプラザ、2 階視聴覚室。

2 部構成とし、第 1 部は基調講演。条例制定や現ビジョンの中間見直し時など協力をいただいていた、慶應義塾大学の植田教授にご講演いただく予定。第 2 部はパネル・ディスカッションで、パネラーとして、10 年前、振興協議会会長でいらした、東洋農機株式会社相談役の渡辺氏をはじめ、竹川会計事務所の竹川氏、帯広畜産大学教授の金山氏に登壇いただく予定。植田先生には引き続き、地域外の目をもって、モデレーターを務めていただく。

具体的な内容の詳細については、今後、植田先生並びに地元のパネラーの皆さんと詰めて打合せをする。10 年を振り返るだけでなく、10 年経った現状を踏まえた上で、地域の課題、今後の 10 年へ向けた提言という流れを意識し、新ビジョンの議論へとつながっていけばと期待しているところ。

(会長)

ぜひ委員の皆さんも出席いただいて、講演などを聞いていただければと思う。

## 4. その他

(委員)

産業をはじめ、これからの地域の課題は、十勝全域的な目をもって、検討していかなければならない部分が非常に多いと思う。帯広市内だけで何とかしようとか、帯広市内の各関係団体

でという考え方でなく、全十勝的な感覚で人選をするというような目をもっていただきたい。帯広市だけでは何もできない。十勝全体で盛り上げなければどうにもならない時代に入ってきているので、その辺に気をつけた動きをするということを頭の中に入れておいていただきたい。

(事務局)

この会議は、帯広市で設置をして、帯広市の計画をつくるための組織なので、どうしても視点としては帯広市の視点になりがち。一方で、この10年間の歩みを考えていくと、広域での連携、というものを国も強調してきている。もちろんオール十勝ですすめているフードバレーとかちや、総合戦略特区など、基本的には広域での連携というのが視点として出てきている。その取扱いをどうするのかというのは、私どものほうでしっかり考えなければならないのですが、今いただいたご意見も参考にしてやっていきたいと思う。

(会長)

産業界の中は、十勝という視点は当たり前のことで、そういう意味では十勝全体を考えてやっていくというのはよい方向だと思う。

## 5. 閉会